

## 強害雑草侵入地に対する更新技術

高川健次・金塚秀夫・梅津頼三郎 (大分県畜産試験場)

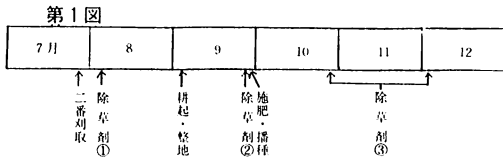
SHIMAKAWA, K., H. KANATSUKA and R. UMEZU: Renovation Method of Weeds Invading Glasslands

エゾノギシギシの侵入した草地を無処理のまま更新すれば、根を切断して数を増し、また種子からの発芽を耕起することによって促進して、更新前より悪くしてしまうケースが多い。

そこでこの問題について1981年から検討した結果、親株の防除はアシュラム剤 (800ml/10a) で十分な効果があるが、問題は播種前後に集中的に発芽する実生株にあることが分かったので、1982年はこのことを中心に検討した。

### 1. 試験方法

この試験で特徴的なことは図1に示す③の処理を秋から冬にかけて行ったことである。



#### 1) 播種直前処理

図1の②の処理は、実生株対象でギシギシの発芽は9月中旬に集中していることが分かったので、牧草の播種適期を10日程遅らせて、イネ科の雑草も含めて非選択性のグリホサート (500ml/10a) で処理した。

#### 2) 播種後の処理

図1の③の処理は②の処理の後に発芽した残りの実生株を対象とするが、牧草に対する薬害を配慮して2種類の薬剤 (アシュラム, MCPソーダ塩) と10~12月の間における適期及び適度な濃度を求めるために第1表のような組合せの処理を行った。

第1表 試験区の構成

(③の処理区分)

除草剤区	処理月日	処	理	濃	度	備	考
アシュラム	10. 27	200	300	500		実用区は11月18日 300ml/10a で 3.3ha 実施	
	11. 18	200	300	500			
	12. 3	200	300	500	700		
MCPソーダ塩	10. 27	100	200	300		実用区は11月18日 300ml/10a で 3.3ha 実施	
	11. 18	100	200	300			
	12. 3	100	200	300	500		

### 2. 結果および考察

②の処理後に発芽してくるものが56本/m<sup>2</sup>あるが、越冬することにより翌春の5月には85%が自然消滅する。

しかしその残りの8.5本/m<sup>2</sup>が実害を及ぼす。

#### 1) アシュラム区

10月処理は濃度にかかわらず1本/m<sup>2</sup>以下にならず効果

が少ないが、11月処理は200m<sup>2</sup>区を除いて6、8月で1本/m<sup>2</sup>以下、また12月処理は濃度を高くすれば効果が大きかった。さらに12月処理の場合は濃度を500m<sup>2</sup>に上げててもほぼ薬害はなかった。

このことは、植物の生育が停止に近い状態で散布するために薬剤の吸収がゆっくり行われ、且つギシギシがイネ科の牧草に比較して葉面積が広いために多量の薬剤を吸収していることに起因しているものと推察される。

#### 2) MCPソーダ塩区

ア 10月および12月処理は濃度に関係なく効果が小さかった。

イ 11月処理の200、300m<sup>2</sup>区で8月における生存本数が1~1.8本/m<sup>2</sup>で最も良かったが、アシュラム区に比較して効果は小さく、さらに1981年の成績と比較しても効果がかなり劣り、年によって差があることは問題である。

### 3. まとめ

1) 図1に示す②の実生株対象の防除は、グリホサート (ラウンドアップ500ml/10a) で十分な効果があった。

2) 図2に示す③の処理はアシュラム剤で11月中旬~12月上旬処理で、濃度は300~500ml/10aが良いと考えられる。

第2表 アシュラム剤及びMCPソーダ塩処理区別株数の経過 (1982年秋更新)

処理区分	1982		1983		*5/12		*8/11			
	処	理	処	理	生	存	生	存		
対照区	10/27	11/18	12/3	5/21	6/29	8/11	生	存		
アシュラム	10.27	200	57.6	-	-	2.5	24.5	17.8	4.3	30.4
	500	31.0	-	-	3.0	5.5	8.5	10.0	27.4	
	11.18	200	28.0	34.5	-	5.0	2.5	2.0	14.5	1.8
	300	28.0	32.5	-	7.5	1.5	0.5	23.1	1.5	
	300	56.0	-	実用規模	-	0.4	-	0.7		
MCPソーダ塩	500	56.0	49.5	-	1.0	0.5	0.5	2.0	1.0	
	12.3	200	77.0	-	58.0	10.0	6.5	5.0	17.0	8.6
	500	77.0	-	70.5	4.5	1.0	1.0	6.4	1.4	
	700	60.5	-	66.5	2.0	0.5	0	3.0	0	
MCPソーダ塩	10.27	100	65.5			9.5	28.0	23.5	14.5	37.9
	300	48.5			3.5	12.0	10.5	7.2	21.6	
	11	100	33.0	37.5		4.0	16.0	11.0	10.6	29.3
	300	58.5	53.5		1.5	3.0	1.5	2.8	2.8	
	18	300	56.0		実用規模		1.8	-	3.2	
3	12	100	57.5		53.0	16.0	28.5	20.5	30.2	38.7
	500	55.0		47.5	2.5	7.0	2.0	4.5	4.2	

\*生存率はみかけの生存率を示す

生存株数+薬剤処理後発芽した株数  
薬剤処理日の株数